

がく 学 而

摂南大学図書館報

No.97 2016.3



本館に学修支援施設 ラーニング・コモンズ設置！

2016年4月
オープン!!

学修支援施設「ラーニング・コモンズ」が2016年4月本館1Fにオープンします。図書館では、ラーニング・コモンズを「自主的な学修のために皆が集う共有空間」と考え、学生の自主的な学修活動を支援するためのスペースとして位置づけています。ここでは、グループで学修し、課題をディスカッションしたり、お互いに教え合ったりして、仲間とひとつの成果物を作り上げることができます。そして、プレゼンテーションに利用できるパソコンやAV機器などの設備がそろっています。

従来の一方向の講義を受けて知識を得る「受身型」から「問題解決型」へと、学修方法の変化に対応した環境を整えています。アクティブラーニングの場として、各人にあった利用方法を探してみましょう！

CONTENTS

図書館の新たな役割を考えるー教育の質的転換と図書館の課題ー	・・2
図書館長 福田 市朗	
1冊の本を読むだけでは危険だ	・・・・・4
法学部 教授 牛丸 與志夫	
本は買わずに借りるもの ～イギリスの貸本屋と読書文化～	・・・・・6
外国語学部 准教授 林田 敏子	
ビブリオバトル2015	・・・・・8

国立国会図書館 図書館向けデジタル化資料送信サービス	・・・・9
ディスカバリー (Discovery) サービスの提供開始について	・・・・9
枚方分館ニュース	・・・・・10
図書館利用者アンケート結果	・・・・・12
ライブラリーサポーター活動の軌跡	・・・・・14
図書館利用統計	・・・・・15
摂大文化大賞、編集後記	・・・・・16

図書館の新たな役割を考える

－ 教育の質的転換と図書館の課題 －

図書館長 福田 市朗

本学の理念と人材育成

あらゆる組織体はその社会的な存在意義を示す理念や精神を有している。本学は“世のため、人のため、地域のために「理論に裏付けられた実践的技術をもつ、現場で活躍できる専門職業人」の育成”を掲げて、知性と人間性（Smart&Human）を相携える人材育成を目指している。この目標は急激な社会変化のなかで、自己を失わずに変化に対応できる自律した精神力を持つ職業人の育成を意味する。大学教育の大きな転換点に立つ今日、本学においてもそのような人材育成を目指し、「教授者中心の教育」から「学修者中心の教育」へと大きな教育の質的転換が迫られているのである。つまり、従来型の教師から学生に対する一方向の授業から、学修者が自らの考えを正しつつ、自らを変革させていく人間力育成が教育の課題となっており、明治以降 100 年以上の歴史を持つ日本の高等教育に対して、大きなパラダイムシフトが求められているのである。

我が国の教育の現状

江戸から明治へ時代が変わる中で、福沢諭吉は「知識見聞を開くためには、或いは人の言を聞き、或いは自ら工夫を運（めぐ）らし、或いは書物をも読まざるべからず。」と説いている。（『学問のすゝめ』岩波文庫）学問は自主独立の精神を得るためであり、教育の目標はその人の成長において他はない。子どもの知能発達を科学的に追究した児童心理学者・発達心理学者であるピアジェ（J. Piaget）も「教育とはすでに出来上がった社会に子どもを当てはめることなく、新しい価値を創造するクリエイターとして育てることである。」と唱えている。

しかしながら、今日の日本の教育の現状は、自

ら考えて答えを出すという自主独立の精神を育むものとは程遠いようである。確かに OECD が 15 歳児（中 3）の生徒を対象に 3 年ごとに実施している直近の「国際学習到達調査（PISA）」によれば、日本人の読解力は 5 位、数学的リテラシーは 9 位、科学的リテラシーは 5 位であり、国際的には比較的高い水準にある。また、小学 4 年と中学 2 年を対象に実施されている「国際数学・理科教育動向調査（TIMSS,2011）」でも国際平均を凌ぐ成績をおさめており、学力に関する限り劣っていない。

しかし、この調査に併せて行われたアンケートの調査報告からは悲しい実態が浮かび上がってくる。例えば、「算数や数学が楽しいですか」という問いに中学生の半数が「楽しくない」と回答。「算数や数学が好きですか」という問いには「好きでない」と答えるものが半数を超えている。さらに、「数学が自分の将来に必要なか」という問いに「必要」と回答した日本の中学生は、国際平均が 82.5%であるのに対して 61.7%にとどまり、「数学を使う仕事に就きたいか」という問いに対して「就きたいと思わない」と回答するものが 82.1%である。これらの結果は、日本の子どもたちが自分の楽しみや喜びのために、あるいは自分の将来や仕事のために勉強をしていると思っていないことを示唆する。しかも、この傾向は小学校から中学校へ、高校から大学へと進むにつれて高くなっている。当然ながら大学生の正課外の自学自習時間は少なく、正課と正課外を合わせた学習時間においても小学生の 6 時間より少ない 4 時間程度である（H23、総務省「社会生活基本調査」）。

以上の数値は今日の教育の現状の 1 つの側面を示すもので、これによって今日の教育のすべてを否定すべきではないが、本来の教育目的が十分に達成されず、学校等の教育機関が十分に機能して

いないことは確かであろう。大学における「教授者中心の教育」もまた行き詰まりを見せているように思われる。このような教育の機能不全は、図書館の利用実態からも見るができる。大学図書館が知の宝庫として教養を深め、研究を進めていくうえで不可欠であることは今日でも変わりない。読書で得た知識はすぐに議論され、議論を通して自分の知識となっていく。しかし、こうした知識の獲得は今日の学生にはあまり見られない。学生は図書館に行かずとも、いつでもどこでもスマホなどの端末機によって容易に＜知識＞を情報として入手することができる。ただ、スマホで簡単に入手した＜情報＞は議論されることがなく、新たな知の創造となることはまれである。＜情報＞は自ら考えて結論を下すための知識とならず、彼らの血肉となり難い。学修者自身の主体的な関わりが欠如しているためである。

アクティブラーニングとラーニング・コモンズ

知識の獲得が情報の入手にとって代わられる今日、知識を育む新たな学習方法と学習の場が求められる。その取り組みの一つが「アクティブラーニング（能動的学習）」の奨励であり、「ラーニング・コモンズ」の設置であろう。本学においても、平成 27 年度「私立大学等改革総合支援事業」の補助（タイプ 1「教育の質的転換」）を受け、寝屋川本館に「ラーニング・コモンズ」を設置することになった。このアメリカで始まった新しい学習スタイルは、ネット社会の出現とともに学修者の「知識の習得から情報の収集へ」と様変わりした学習態度の変化に対応したものであった。このような学習態度の変化は本学の図書館利用実態にも現れている。例えば、2014 年度の図書館利用者の延べ人数は、本館・枚方分館を合わせると 355,204 名であるが、そのうち書籍等の館外貸出者数の延べ人数は 22,233 名であり、6.3%に過ぎない。図書館を利用する多くの学生は知識を得るためではなく、グループで討議したり、資格取得の学習をしたり、課題レポートを作成したり、あるいは授業の合間に雑誌等を見たりしているのである。図書館に対

する要望も単なる図書検索だけではなく、新聞の読み方や資料の整理法、さらには本に対する興味を持ち方や読書方法に関わるものまで多岐に渡っている。「ラーニング・コモンズ」は今日の学生の多様なニーズと結びつき、自主的な学修を支える施設として、その機能を発揮するものでなくてはならない。



終わりに

知識は自らの考えを正し自らの行動に生かされることでその力を発揮する。しかし、17 世紀のイギリスの哲学者ベーコン（F. Bacon）が指摘するように、私たちの知識には様々なイドラ（先入観）が存在する。そのイドラを打ち破るには読書が近道だが、人々と意見を交わし議論することは欠かせない。今なお図書館は静かに読書するところとされる。しかし、新しい知の創造を目指す場所でもある。教育目標の達成は図書館だけでできるものではないが、図書館における新たな機能の開発を必要とすることは確かなようである。

最後に、「アクティブラーニング（能動的学習）」の学習支援施設として今年本館に設置される「ラーニング・コモンズ」が、学生諸君の学習意欲の起爆剤となり、自由闊達な議論や説得力あるプレゼン経験、仲間と学修する楽しさを通して表現力向上や思考を研ぎ澄まし、有為な人材として社会に旅立ってくれることを切に期待している。図書館としても、そのような人材育成のために惜しみない支援を行いたいと思っている。

1冊の本を読むだけでは危険だ

法学部 教授 牛丸 與志夫

はじめに

昨年の夏、教養を身につけようと思い、ジェイムズ・パラット著・水谷淳訳『人工知能―人類最悪にして最後の発明―』（2015年ダイヤモンド社発行）を読んだ。私は、大変、感銘を受け、最近、読んだ本では、最高のものだった。それは私に生きる目標を与えてくれるものであったからである。私も年をとり老人になりつつある。しかし、私の老後のイメージは良くないものだ。老人になると貧困のうちに、病気になり、最後は苦しみながら死ぬというものである。ところが、パラットは、貧困、病気、老化という人の苦しみが消滅する時代がすぐに来ると述べている。この予想は、単なる思い付きではなく、いかにもありそうに思える。

パラットの予想

パラットの予想は以下の通りである。人工知能（Artificial Intelligence、略称 AI）が改良され、はやい予測では、2030年に、人間の知能レベルを超えた人工汎用知能（Artificial General Intelligence、略称 AGI）が開発され、その後、短期間で、知能爆発が起こり、2045年には、人間の1000倍の知能を持つ人工超知能（Artificial Super Intelligence、略称 ASI）が生まれる。ASIは、自らの意思を持ち、自己発展し、人類を支配することになりそうだ。人類は絶滅の可能性が高まる。

パラットの予想の最終の着地点は、絶望的であるが、私は、AGIがASIに至るまでの間に、人類にとって夢のような時代を迎えることに期待している。AGIは、人類の生活必需品のすべてをロボット工場で生産し、あらゆる病気を治癒する方法を発見し、また老化を防止する方法も発見するであろう。そのような時代は、シンギュラリティー（技術的特異点）と呼ばれている。

シンギュラリティーの主役は、人工知能である

が、ナノテクノロジーが重要な脇役であると考えられている。ナノテクノロジーの発展を妨げる問題の解決法を人工知能が発見し、それによってナノテクノロジーが加速度的に進歩するらしい。老化の影響を細胞レベルで取り除けば、不老不死が実現する。身体感覚入力をナノロボット（ナノマシーン）に置き換えれば、没入型の仮想現実が実現する。そして、ニューロンをスキャンすれば、人間の心をコンピューターにアップロードできることになる。

知能爆発が起こる根拠は、レイ・カーツワイルの「収穫加速の法則」による。コンピューター市場では、「ムーアの法則」が説かれている。すなわち、1ドルあたりのコンピューターのパワーは、ここ30年で10億倍に上昇した。およそ20年後には、1000ドルで現在の100万倍強力なコンピューターが、25年後には10億倍強力なコンピューターが買える。2020年ごろには、人間の脳をモデル化できるようになり、2029年までには、細部にいたるまで人間の脳とまったく同じ知能と感情を持つ脳のシミュレーションを走らせることができる。2045年までには人類と機械の知能が10億倍高まり、疲労や病気や死といった人間の弱点を克服するテクノロジーが開発されるというものである。

自らの意思を持ち、人間の1000倍の知能を持つASIが人類を滅ぼさないようにするための様々な方策が提案されているが、100パーセント完全のものはないと述べている。

私は、人類の絶滅は経験したくないが、生きている間にシンギュラリティーの現実化の成り行きを自分の目で確かめ、その利益を享受したいと願ひ、絶対、あと15年は、生き抜くぞと決心した。

ワトソンの成功

この正月に、人工知能に関する知識を得ようとして、2冊の本を読んだ。まず、スティーブン・ベイ

カー著・土屋正雄訳『IBM 奇跡の“ワトソン”プロジェクトー人工知能はクイズ王の夢を見るー』（2011年早川書房発行）である。

IBM は、1997 年は、チェスの世界チャンピオンを打ち負かした「ディープブルー」というコンピューターを製作した。さらに、IBM は、2011 年に、アメリカで人気のある「ジョパディ」というクイズ番組のチャンピオンを打ち負かした「ワトソン」というコンピューターを製作した。本書は、「ワトソン」の開発・成功の物語である。「ワトソン」は、世界一の物知りだと証明された。今後、医者とか弁護士等の専門職は、確実にコンピューターに職を奪われると感じた。

最近、ソフトバンクグループと米 IBM は、ソフトバンクの人型ロボット「ペッパー」に、IBM が開発している人工知能システム「ワトソン」を搭載できるよう共同開発を始めると発表したという報道（YOMIURI ONLINE、<http://www.yomiuri.co.jp/science/20160107-OYT1T50104.html>）がされている。

ザルカダキスの主張

次に、ジョージ・ザルカダキス著・長尾高弘訳『AI は「心」を持てるのかー脳に近いアーキテクチャー』（2015 年日経 BP 社発行）を読んだ。

残念ながら私は、この本を読んだあと、前述のパラットの予想は、根本的な誤りがあると思うようになった。

パラットの主張は、ムーアの法則により、現在のコンピューターの指数的な進歩により、AGI が生まれるというものである。しかし、ザルカダキスは、この理論が誤っていると主張する。すなわち、この理論は、次のような誤った前提に立っている。第 1 に、現在のコンピュータテクノロジーが、アーキテクチャ的には、人間の脳と異なるのに、自己認識を含む人間の知恵のあらゆる側面をカバーできるというものであり、第 2 に、18 カ月ごとに倍になるというベースでコンピューターの複雑度が上がると、コンピューターが脳の複雑度の限界を超えたときに人類を超える超知能がひとりで生まれるはずだというものである。

また、ザルカダキスは次のように主張する。すなわち、現在のコンピューターは、「フォン・ノイマン・

アーキテクチャ」と呼ばれる特定のハードウェア・アーキテクチャを基礎としたものである。AI が世界を乗っ取るためにはまず自己認識を持たなければならぬが、現在のテクノロジーにそのような事態を万が一にも引き起こしそうな要素はまったくない。そもそも、人間の意識とは、脳細胞が実行する論理的なアルゴリズムではなく、膨大な量の混沌とした意識されない心理作用が新皮質で統合された結果であることによるためである。

しかし、ザルカダキスは、AGI の成功は、不可能だと断定しているものではない。人間の脳の機能を模倣し、サイバネティクスと神経科学から学んだ教訓を計算にいった新世代のコンピューター、いわゆるニューロモーフィックコンピューターによって実現可能だとする。

おわりに

最近、トヨタ自動車が、米国に設立した人工知能（AI）技術の研究開発会社「トヨタ・リサーチ・インスティテュート（TRI）」に、米グーグルのロボット開発部門の責任者等の米国の著名な研究者を引き抜いたという報道（YOMIURI ONLINE、<http://www.yomiuri.co.jp/economy/20160107-OYT1T50021.html>）を読んだ。グーグルは、「グーグル X」というステレス企業を設立しており、AGI の研究を進めている。グーグルは、レイ・カーツワイルをはじめ、2 人の世界屈指の AI 科学者を雇っている。

AGI や ASI を開発した国家または企業は、世界を牛耳ることになる。今後は、世界で AGI や ASI の開発競争のために莫大な資金と優秀な頭脳が用いられることになろう。しかも、我々が気づかないところで、ひそかに熾烈な開発競争が行われるであろう。その動きの一部が、時々、世間にもれてくる。

ニューロモーフィックコンピューターが開発されることを期待しつつ、その展開をウオッチするだけでも、長生きする価値があると思う。

そのためにも本を読み続けることが重要だ。1 冊の本だけ読んでその内容を信じこむことは、危険すぎる。

本は買わずに借りるもの

～イギリスの貸本屋と読書文化～

外国語学部 准教授 林田 敏子

秘密の読書

さあ、ルーシー、ここにある本を隠してちょうだい。早く、早く。『ペレグリン・ピクルズ』は化粧台の下へ、『ロデリック・ランダム』は戸棚のなかへ、『無垢な密通』は『人間の義務』の間へ…（中略）…それがすんだら『シャボーン夫人』を目につくところに置いて、『フォードイスの秘密』をテーブルの上に開いておいてちょうだい。

これは1775年初演のR・B・シェリダンの喜劇『恋敵』（*The Rivals*）の一場面である。ロマンティックな恋愛を夢見る有産階級の女性リディアは、ロマンス小説を読むことに余念がない。恋人の父親が突然来訪したことに慌てたりディアは、メイドのルーシーに命じて、借りてきた小説を必死で隠し、「まじめな」読書を装っている。メイドがリディアのためにこれらの本を調達してきたのは、物語の舞台ともなったバースのような保養地や、ロンドンを中心とする都市部に多く見られた貸本屋（circulating library）である。当時のイギリスではセンチメンタルなロマンス小説が女性の人気を集めていたが、その文学的評価はきわめて低く、身分のある女性がこうした小説を堂々と読むのは憚られる行為であった。事実、メイドのルーシーも、借りてきた小説をコートや服の下に隠して持ち帰っている。

R・エンゲルジ
ングによれば、
18世紀後半のイ
ギリスは読書革
命の時代であっ
た。1冊の本を何
度も読み返すイ
ンテンシブな読
書から、多くの



Isaac Cruikshank, The Circulating Library

本を読み散らすエクステンシブな読書へ。いわば精読から多読への移行によって、読書行為は非神聖化され、識字率の向上とあいまって、読者層は一部の知的エリートから女性を含む中流階級まで拡大した。小説を中心とする手軽な読み物を提供する貸本屋は、こうして産声をあげた。

貸本屋の誕生

イギリスで最初の貸本屋が設立された年には諸説あるが、その創始者をサミュエル・ファンコートとする点では一致している。



スカーバラの貸本屋

18世紀半ばにファンコートが始めた貸本屋は、入会金が1ギニー、会費が3ヶ月1シリングで、本とパンフレットを1度に1冊ずつ借りることができた。その後、貸本屋の数は都市を中心に増え続け、18世紀末には1000軒を超えた。

貸本屋が急速に広まった背景には、新刊本の価格の高騰があった。1780年には小説1巻の価格は平均2シリング6ペンスであったが、1791年には3シリング、1800年には4シリング6ペンスと跳ね上がっていった。さらに、1814年に出版されたウォルター・スコットの小説『ウェイヴァリー』以降、小説の形態は3巻本でほぼ統一されるようになり、21年に発表された同じくスコットの『ケニルワース』によって、その値段も31シリング6ペンスというきわめて高価なものに落ち着いた。

貸本屋では1度に1冊の貸し出しを原則としていたため、3巻本小説は顧客の拡大を狙う貸本屋にとって好都合であった。また、新刊本の約4割は貸本屋が買い取っていたともいわれており、出版社も貸本屋のニーズを無視することはできなかった。内容よりも3巻本という体裁のほうが重視されたこともあり、貸本屋は、才能のない作家と判断力のない読者を大量に生みだしていると揶揄された。19世紀に出版された小説の大半は、貸本屋を通して読者の手に渡ったといっても過言ではない。

ミューディ

数ある貸本屋のなかで、もっとも大きな成功をおさめたのが1842年に設立されたミューディーズ・セレクト・ライブラリー（Mudie's Select Library）である。「セレクト」の語が示すように、ミューディは厳格なヴィクトリア時代の中流階級のモラルに合致する良質の本を厳選して提供することを旨とした。100万

冊にもおよぶ豊富な蔵書は、政論誌『スペクテーター』に「冊数に関するかぎり有名なボードリアン・ライブラリ（オクスフォード大学）もその比ではなく、ヴァチカン図書館も小人のよう」と言わしめるほどであった。



ミューディの外観

ミューディのカタログによると、蔵書の大半を占めたのは小説で、これが全体の 42%、ついで歴史・伝記が 22%、旅行記・探検記が 13%、その他が 23% という構成であった。蔵書カタログは貸本屋のカウンターで本を請求するときにも活用された。蔵書カタログの番号は、現在の図書館でいうところの請求記号を兼ねていたのである。ミューディのみならず貸本屋の多くは蔵書リストを新聞に掲載したり、無料で配布したりした。貸本屋の広告は結果的に新刊本の広告としても機能した。大手貸本屋のなかには本の出版を手がけるところも現れ、出版業界における貸本屋の地位はますます高まっていった。

ミューディは貸本や出版だけでなく、古くなった本の修理や製本、古書販売なども手がけた。仔牛の革をもちいたミューディ独自の製本は、記念日の贈り物やジェントルマンの書棚を飾るのにふさわしい装丁として人気を博した。また、新刊のさいに大量に仕入れたものの、時の経過とともに需要が低下した本は、半額以下の値段で売却された。個人でこれを購入する者もいたが、地方の貸本屋や 1850 年代以降、少しずつその数を増していった公共図書館が 100 冊単位で買い取ることも珍しくなかった。本は、出版業界の中心に位置する貸本屋（circulating library）を通して、まさに社会のなかを循環（circulate）していたのである。

女性読者

貸本屋を支えていたのは、中流階級、なかでも女性の読者であった。18 世紀末の段階で、女性は貸本屋の会員の約 30% を占めていた。女性が貸本屋に通うことを良しとしない社会風潮があったことを考えると、実際の「利用者」はさらに多かったものと考えられる。

貸本文化が花開いた 18 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスでは、小説に夢中になる女性に批判的なまなざしが向けられた。早くも 1773 年には『マンズリー・レビュー』が、「女性は常に青リンゴや青グースベリーなどの健康によくない食べ物のように小説を愛好する」として、女性にとって小説がいかにも有

害であるかを説いている。即物的で煽情的な小説は、物事に感化されやすい（と考えられた）若い女性を、道徳的に墮落させると考えられたのである。



おり、文字通り「貸本屋の虜」となった女性の姿がコミカルに描かれている。



上の図は 1889 年の『絵入りロンドン・ニュース』に掲載された諷刺画である。3 人の女性が貸本屋から借りてきた 3 巻本小説に読み耽っている。おそらく読み終わったら交換するのであろう、待ちくたびれた飼犬には目もくれず、ときに感涙しながら物語の世界に没頭している。

小説は中流階級女性の活字需要を満たす形で成立した新しいジャンルであった。小説の流行とともに、貸本屋はそれまで公的な読書空間から排除されてきた女性を新たな読書人口として取り込みつつ成長していった。貸本屋は本を貸し出すだけでなく、これを修繕し、製本し、転売し、そしてまた新たな本を出版した。貸本屋が女性を含めた社会全体に広く受容されることで、「本は買わずに借りるもの」というイギリス独特の読書文化が育まれていったのである。

参考文献

- 清水一嘉 (1994) 『イギリス貸本文化』 図書出版社
- 清水一嘉 (1999) 『イギリス近代出版の諸相』 世界思想社
- 宮下志朗 (2002) 『書物史のために』 晶文社
- 尾崎俊介 (2008) 「後ろめたい読書—女性向けロマンズ小説をめぐる「負の連鎖」について—」『愛知教育大学研究報告』 57 R・シャルチェ（長谷川輝夫・宮下史朗訳）(1994) 『読書と読者』 みすず書房
- G.L.Griest(1970), Mudie's Circulating Library, Indiana University Press

全国大学ビブリオバトル 2015—首都決戦—to本学学生が出場！

図書館では昨年度より本格的にビブリオバトルの普及を目指し、ライブラリーサポーターや協力いただけるゼミなどを通じて学生諸君とそのスキルアップに取り組んできました。その成果を反映して、今年度学内での第2回予選会（11月9日開催）を勝ち抜いた理工学部4年の福田光さんが、関西Aブロックの地区予選（11月28日紀伊國屋グランフロント大阪で開催）を見事勝ち抜き、12月23日に東京よみうり大手町ホールで開催された「全国大学ビブリオバトル2015—首都決戦—to」に出場しました。

当日は全国の各地区から選ばれた精鋭30名による壮絶なバトルが繰り広げられ、福田さんも持てる力を十分に発揮して奮戦しましたが、準決勝敗退となりました。しかし、短い練習期間にもかかわらず、全国に本学の名を知らしめてくれたことは快挙と言ってよいと思います。

全国大会出場は貴重な経験であり、今後に続く人たちにエールを送ってもらい意味も兼ねて、本人に感想やビブリオバトルに対する思いを寄稿してもらいました。

「面白いもの、面白い人」—ビブリオバトル首都決戦 2015 に出場して—

理工学部4年 福田 光

新しいものは刺激的で、面白くて好きだ。本でも、人でも、何でも面白いと感じた途端、身体中のエネルギーがそれに吸い寄せられる感じがする。そして私は、いろんなものにすぐ面白さを感じてしまう。よって私は、善いか悪いかは別に、いろんなものにエネルギーを分散させている。

ビブリオバトルの存在を知ったのは今から2年ほど前。放送部の活動で、放課後の1号館1階で朗読をした時のことだった。発表を聞いてくださった図書課の職員さんから、ビブリオバトルに出てみないかと声をかけられた。

ビブリオバトルは、簡単に言えば面白いと思う本を、パワーポイントや読み上げ原稿などを使わずに紹介するというものだ。時間は5分、その後3分程度質疑応答があり聴衆の多数決でチャンプ本を決める。若者の活字離れを止めるために、京都大学のグループが発案したものらしい。

そんなバトルに出ないと言われて、人前で話すのが大好きな私は、「出るしかないやろ」と参加を決めた。しかし、出るぞという段階で私は愕然とした。出ることを決めた方がいいが、どの本を紹介するか全く思い浮かばなかったのだ。

何を隠そう、私の読書量は家族の中でもワースト1位になるかならないかといったあたりで、その上周囲から勧められたものを借りたりすることが多く、自らが選んだこれはという1冊が思い浮かばなかったのだ。（結局は国語の先生から以前勧められた本を選んだ。）これは全国大会出場が決まった時の余談になるが、この読書事情をよく知っている家族からは、「なぜお前が出るんだ」と啞然とされた。「つづく運が良かっただけだね」とも言われた。全く同感である。

さて、授業の関係もあり、昨年冬ようやく大学内のビブリオバトルに出場することができた。続いて大阪の

とある書店で大阪Aブロック、そして東京の全国大会に出場した。謙遜ではなく、ここまでは勝ち上がることを本気で想定していなかった。大阪Aブロック、全国大会……何だかすごそうだ、すごい人たちがめっちゃくちゃ集まっているんだ。きっと私では歯が立たない。だから、せめて面白かったと思われるような発表にしよう、楽しもうと思った。

予想通り、大会にはすごい人がいた。選んだ本が面白い人、ためになりそうだけど普段なら見向きもしない本を本気で読みたくさせてしまう人、すでに絶版になった本を紹介する人までいた。

大会はとても面白かった。あの場に立てたことよりも、初めてで、予想外で、どんでん返しがあり、本の中の世界のようなすごい人がめっちゃくちゃ集まる場に行けたことがとても感動的だった。

エネルギーを費やすのは疲れる。初めてのことに挑戦すると失敗も大敗もする。けれども、このビブリオバトルでの経験が私にとって何物にも代えがたい、得難い経験であったように、新しいことに挑戦することはきっと財産になる。この文章を読んだことが読み手にとって新しいものの始まりになるなら、もっと素晴らしいに違いない。



新サービスの紹介

国立国会図書館



図書館向けデジタル化資料送信サービス —2016年4月から本・分館で提供—

図書館向けデジタル化資料送信サービスとは、国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料（下表のとおり）について、公共図書館・大学図書館等（承認を受けた館に限る）にデジタル画像を送信し、各図書館で画像の閲覧等ができるようになるサービスです。

このたび国会図書館の承認を得て本館・分館で、2016年4月よりこのサービスの提供が可能となりました。

利用資格は本学学生・教職員のみで、閲覧は無料ですが、複写は有料での提供となります。（1枚当たり白黒10円、カラー50円を予定）なお、データダウンロード等はできません。詳しくはカウンターまで。

資料種別	概 要	対象資料数(2016.1現在)
図 書	昭和43年までに受け入れた図書	約50万点
古 典 籍	明治期以降の貴重書のうち、送信可能なもの	約2万点
雑 誌	2000年までに発行された雑誌（商業出版されていないもの）のうち、送信可能なもの	約1万タイトル（約78万点）
博士論文	1991～2000年度に送付を受けた論文（商業出版されていないもの）のうち、送信可能なもの	約11.5万点



ディスカバリー (Discovery) サービスの 提供開始について

図書館では4月から、本学で利用可能な学術情報資源を一度に検索できるサービスの提供を開始します。現在も27以上のデータベースを契約して学術情報の提供を行っていますが、自分に必要な文献を探す場合、データベースをひとつひとつ検索する必要があり、検索に多くの時間と労力がかかっていました。

そこで、本学図書館が契約しているデータベースや電子ジャーナル、図書館が所蔵する図書、雑誌をまとめて検索できるサービスを提供することにいたしました。このサービスは**ウェブスケールディスカバリー (Web Scale Discovery)**と呼ばれ、一度に、複数のデータベースを検索することができるので、今まで見つけられずにいた資料が活用できるようになることが期待できます。

検索結果画面のメニューを選択することによって、図書館所蔵のデータに限定したり、雑誌記事に限定したり、出版年や主題で限定することも自由にできます。

このシステムは、気軽に使うことができる上、検索速度も非常に早く、文献のタイトル順ではなく内容の関連度順に検索結果が表示されます。個々のデータベースやサーチエンジン、図書館OPACをそれぞれ検索したのではなかなか発見できなかった資料を見つけ出すことができるかもしれません。ぜひ、試してみてください。

なお、本学のOPAC情報についてはデータ格納に若干時間を要するため、5月以降検索対象になる予定です。



データベース利用講習会の開催

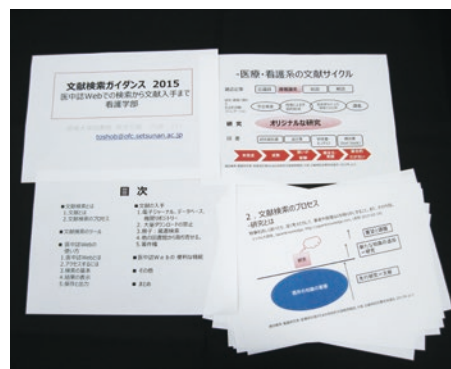
図書館では、「本」などの冊子資料のほかにもインターネットを利用した各種データベース（以後 DB という）や DVD・CD などの電子資料も多く所蔵しており、利用者へは学内ネットワークにつながるパソコンや再生機器を設置して学習・教育・研究のための情報提供をしています。

これら電子資料の多くは感覚的な操作で容易に必要な情報を得ることができますが、ちょっとした予備知識やテクニックがあればさらに便利な情報源として活用可能になります。

そのため図書館では、日常の利用指導や案内などに加えて図書館が行う学習・教育支援活動の一環として資料の効果的な活用法をお伝えするための DB 利用講習会を実施しています。

図書館では、電子資料の利用に関する初歩や応用方法、裏技や様々なルールなどを案内することで便利で有用な資料提供を目指しています。

このほか講習会の当日以外でも分館カウンターに訪れる希望者には、館内の PC を用いて機器操作や利用内容の説明を行うなど細やかな図書館利用サービスを提供し多くの利用者の学習・研究活動のサポートを展開しています。



「医中誌 Web」利用講習会（図書館利用者 PC コーナー）

▲看護研究と臨床実習に備えての教育用 DB

「医中誌 Web」の利用講習会

日 時：2015 年 4 月 13 日、16 日、20 日、22 日（4 回実施）

所要時間：約 90 分間（説明と演習）

場 所：枚方学舎 5 号館 3 階 情報処理第 1 演習室

対 象：看護学部 3 年次

▲図書・論文資料検索ディスカバリーサービス

「PRIMO」のトライアル利用説明会

日 時：2015 年 11 月 16 日 15：30～16：30（分館）

＜寝屋川本館では 11 月 17 日実施＞

場 所：枚方学舎 5 号館 3 階 情報処理第 1 演習室

対 象：薬学部および看護学部の教員・学生



図書・論文資料検索ディスカバリーサービス説明会

分館限定で読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」実施

読書習慣を促進し図書館利用や資料の活用性の向上を図るため、読書ラリー「YOMOCA（ヨモカ）」を 2015 年 6 月 1 日（月）から 2016 年 2 月 29 日（月）まで昨年度に引き続き実施しました。

貸出図書の返却時と図書を紹介する POP コメントなどを提出する度にポイントが集まり、一定ポイント数に達すると記念品贈呈や貸出冊数が増加できる優遇措置が適用される特典があります。

また、読者からの POP コメントは、館内展示やブログ（インターネットの仮想本棚、末尾に案内）で掲載し、資料の魅力や面白さ、読書の楽しさなどを広めています。

さらに秋の読書週間を含む 10 月 7 日（月）～11 月 30 日（月）には、秋の読書キャンペーンを実施し利用者へのポイントサービスを期間限定で増強して参加者の増加を図りました。年間を通じたイベントの参加登録者数は 98 名に上り、ラリーポイントの満点達成者も述べて 16 名を数えるなどこのイベントが定着する兆しがうかがえます。

枚方分館では、こうした読書習慣の輪がさらに広がれば学習・教育の支援につながるものと考え、2016 年度においても引き続きイベントの実施を予定しています。

恒例の選書フェアを開催

6月29日(月)から7月3日(金)の5日間にわたり、すべての利用者共通に利用できる図書館配備用に医・薬・看護学を中心に500冊を超える現物の図書を持ち込んで、分館内の特設ブースで選書フェアが開催され、入館した利用者は実際に図書を手に取り熱心に選書していました。期間中、学生と教員から選書された購入希望図書のうち、重複所蔵の確認や流通在庫の調査などを経た116冊の図書について購入手続きを行い、利用者への早急な提供を目指して9月には手配したすべての図書が利用可能になりました。

また、こうして集められた図書は、協力いただいた方や利用者への報告を兼ねて、館内の一角に設置した企画展示コーナーで展示を行い、多くの利用者の目に触れるようにしました。



選書フェア2015(学術雑誌ゾーン特別ブース)

2015年度企画展示の実施

時期折々に身近な話題や興味を引く事案からテーマを選び、ひとつのテーマの展示期間を1～2カ月間で紹介しました。2015年度の企画展示のテーマ内容は下表のとおりです。手に取った図書は、通常書架に配列されているものと同じようにすぐに利用することもでき、貸出も可能になっています。

館内の資料を利用者の皆さんの目に触れるよう展示することで、図書館資料の有効利用に繋がるようにと、一年を通じて実施していますので、来館の際には是非ご覧ください。

また、図書館では日常的に利用者の皆様の声を大切にした情報提供サービスを心掛けております。ご提案やご希望事項、ご質問などは遠慮せずにカウンターへお寄せください。スタッフ一同お待ちしております。

《2015年度 企画展示一覧》

時 期	展 示 内 容
5月	ネットのあれこれ
6月	生 と 死
7月	将 来 の 夢
8月	選書フェア2015
10月	手 紙
11月	環境問題
11月	Big books & Art books
12月～ 2016年1月	医療統計
2月	借りられる辞書・辞事典



選書フェアで選ばれた資料を展示(企画展示ブース)

.....
 本学図書館の関係サイトのURLはこちらです。

- 図書館ホームページ
<http://www.setsunan.ac.jp/sisetsu/tosho/>
 - 図書検索(OPAC)
<http://opac.lib.setsunan.ac.jp/webopac//topmnu.do>
 - 摂大図書館ポータルサイト
<http://ufinity01.jp.fujitsu.com/setsunan/>
 - 枚方分館のブログ
<http://booklog.jp/users/setsunanhira>
 - 本館のブログ
<http://booklog.jp/users/setsunanlib>
-

図書館利用者アンケート結果

図書館では利用者の皆さんの図書館に対する認識や要望を確認するため、毎年度アンケートを実施しています。

今年度は昨年の11月から12月までメインカウンター付近にアンケート用紙を置いて入館者に回答いただきました。また、同時に図書館ポータルサイトでも回答いただき、ご協力ありがとうございました。今後の図書館運営に活かしたいと思います。

本稿では、前年度との比較も含め、主な項目の集計結果をお知らせします。



1. 回答者数

157人(昨年度：166人) 内、ポータルサイト：37人(昨年度：48人)

【本館】 123人(昨年度：125人)

【分館】 34人(昨年度：41人)

2. アンケート集計

(1) 図書館をどの程度利用していますか。

本館	選 択 肢	教職員	院・学部生他	計 (人)	比率 (%)	前年度 (%)
	ほぼ毎日	0	25	25	20.3	20.0
	週に2～3日程度	3	44	47	38.2	46.0
	週に1日程度	4	28	32	26.0	21.0
	月に2～3日程度	0	11	11	8.9	9.0
	月に1日程度	0	4	4	3.3	1.0
	試験期間のみ	0	0	0	0.0	1.0
	ほとんど利用しない	0	2	2	1.6	1.0
	その他	0	2	2	1.6	1.0

●回答者の58%以上が週に2～3日以上利用していると回答しています。

分館	選 択 肢	教職員	院・学部生他	計 (人)	比率 (%)	前年度 (%)
	ほぼ毎日	2	9	11	32.4	16.2
	週に2～3日程度	1	6	7	20.6	21.6
	週に1日程度	1	2	3	8.8	8.1
	月に2～3日程度	2	2	4	11.8	16.2
	月に1日程度	2	1	3	8.8	8.1
	試験期間のみ	0	3	3	8.8	24.3
	ほとんど利用しない	1	1	2	5.9	2.7
	その他	1	1	1	2.9	2.7

●回答者の53%が週に2～3日以上利用していると回答しています。

(2) 図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。〈複数回答〉

項 目	本 館	比率 (%)	分 館	比率 (%)
教養図書	24	20.7	11	35.5
専門図書	59	50.9	15	48.4
参考図書	18	15.5	4	12.9
視聴覚資料	32	27.6	1	3.2
国内学術雑誌	9	7.8	4	12.9
外国学術雑誌	8	6.9	4	12.9
一般雑誌	27	23.3	7	22.6
電子ジャーナル	3	2.6	7	22.6
電子ブック	1	0.9	3	9.7
データベース	6	5.2	3	9.7
新聞	6	5.2	3	9.7
シラバス掲載図書	9	7.8	2	6.5
資格取得関連図書	22	19.0	2	6.5
文庫本・新書本	41	35.3	9	29.0
その他	3	2.6	0	0.0

●本館、分館ともに専門図書の充実を望む声が一番多い結果となっています。

次いで、本館では文庫本・新書本、視聴覚資料、一般雑誌の順、分館では教養図書、文庫本・新書本、一般雑誌、電子ジャーナルの順となっています。

(3) 図書館の環境についてどう思われますか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本 館	前年度	分 館	前年度
資料の配置	2.5	2.4	2.5	2.6
閲覧席	2.4	2.3	2.5	2.5
案内表示	2.5	2.4	2.4	2.5
静寂性	2.1	1.9	2.3	2.1
視聴覚設備	2.4	2.3	2.2	2.2
パソコン設備	2.3	2.2	2.0	2.2
環境全般	2.4	2.3	2.4	2.5

●本館は「静寂性」の評価が、分館は「パソコン設備」が他の項目に比べやや低い結果となりました。平均点が本館では全般的に微増傾向、分館では微減傾向となっています。

(4) 図書館の企画展示（特定のテーマの図書の展示）についてどう思いますか。

項 目	本 館	比率(%)	分 館	比率(%)
関心（興味）がある	39	33.6	16	50.0
あまり関心（興味）はない	63	54.3	11	34.4
企画展示は見たことがない	14	12.1	5	15.6

●分館では半数近くの方が関心(興味)を示していますが、本館では3割程度に留まっています。

(5) 図書館イベント活動等についてご記入ください。

[a:関心（興味）がある、b:あまり関心（興味）はない、c:知らない]

項 目	本館 比率(%)			分館 比率(%)		
	a	b	c	a	b	c
摂大文化大賞	15.0	51.3	33.6	19.4	32.3	48.4
ビブリオバトル	24.8	62.8	12.4	9.7	35.5	54.8
マイ・フェイバリット・ブックス	22.1	45.1	32.7	9.7	32.3	58.1
選書フェア	28.9	41.2	29.8	22.6	29.0	48.4
図書館学生サポーター活動	12.4	46.0	41.6	6.5	35.5	58.1
読書ラリー"YOMOCA"(枚方分館)	3.6	28.2	68.2	25.8	32.3	41.9

●本館では各々一定の認知度がありますがもっと高める必要があります。分館では「読書ラリー」と「選書フェア」の認知度が高くなっています。

(6) 図書館のお知らせやサービス内容を主に何で知りますか。〈複数回答〉

項 目	本館回答数	比率(%)	分館回答数	比率(%)
ホームページ	32	29.9	7	24.1
Library Guide[冊子]	4	3.7	0	0.0
館内のパンフレット	7	6.5	5	17.2
館内の掲示	69	64.5	16	55.2
館外の掲示	30	28.0	7	24.1
図書館スタッフ	5	4.7	4	13.8
友人	14	13.1	5	17.2
その他	1	0.9	0	0.0

●本館、分館とも「館内の掲示」が最も多く、次いで「ホームページ」、「館外の掲示」の順となっています。

(7) 次の目的で図書館を利用する場合、利用環境はどうですか。

良い3点、普通2点、悪い1点として平均点を算出しました。

項 目	本館	前年度	分館	前年度
レポート作成	2.4	2.3	2.6	2.4
自学、自習	2.4	2.4	2.6	2.5
グループ学習	2.1	2.3	2.2	1.8
図書閲覧	2.5	2.4	2.6	2.5
雑誌・新聞閲覧	2.5	2.3	2.5	2.3
視聴覚資料鑑賞	2.4	2.4	2.2	2.4

●全体的に平均点が、本館では「グループ学習」、分館では「視聴覚資料鑑賞」を除き微増傾向となりました。

(8) 図書館スタッフの対応についてどう思われますか。

	良い	比率(%)	普通	比率(%)	悪い	比率(%)
本 館	77	67.5	33	28.9	4	3.5
分 館	22	68.8	10	31.3	0	0

●7割近い人が「良い」との評価でしたが、引き続き今後もサービス向上に努めたいと思います。

ライブラリーサポーター活動の軌跡

図書館には図書館をより良くするために図書館運営をサポートしてくれる、本が好きで、図書館が好きな学生諸君がサポーターとして活動しています。

「摂大文化大賞」など図書館行事の運営に協力してくれる一方、5分の図書紹介と質疑応答の後、投票でチャンプ本を決定する知的書評合戦「ビブリオバトル」や、今年度から誕生した5分で自分の好きな本を紹介するだけで優劣を競わない「マイ・フェイバリット・ブックス」などのイベントに積極的に参加してくれています。定期活動は、月に1度のペースで行われるミーティングですが、図書館に対してユーザーを代表した改善要望や意見を出してくれており、図書館としても大いに参考になります。

そんな彼らの今年1年の活動を振り返ってみました。



マイ・フェイバリット・ブックス5月



マイ・フェイバリット・ブックス7月

● ビブリオバトル

学内開催(寝屋川キャンパス)

	開催日	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
第1回	6月18日 (木)	18:20~ 19:30	プチテアトル	5名	約16名	
第2回	10月12日 (月・祝)	13:00~ 14:30	525教室	5名	約27名	摂大祭ビブリオバトル・ 全国大学ビブリオバトル2015 摂南大学予選会(第1回)
第3回	11月9日 (月)	17:00~ 18:00	10号館1階 ロビー	4名	約23名	全国大学ビブリオバトル2015 摂南大学予選会(第2回)

学外開催

	開催日	時 間	場 所	発表者	備 考
関西 Aブロック 地区予選	11月28日 (土)	15:00~ 16:00	紀伊國屋書店梅田 グランフロント大阪店	関西5大学 6名(本学2名)	全国大学ビブリオバトル2015 (本学1名がチャンプに!)
首都決戦 (本戦)	12月23日 (水・祝)	15:00~ 16:00	よみうり大手町 ホール(東京)	全国から 30名	全国大学ビブリオバトル2015 参加(準決勝敗退!)

● マイ・フェイバリット・ブックス

学内開催(寝屋川キャンパス)

	開催日	時 間	場 所	発表者	参加者数	備 考
第1回	5月8日 (金)	17:00~ 18:00	第3グループ 閲覧室	5名	約15名	
第2回	7月1日 (水)	17:00~ 18:00	第3グループ 閲覧室	5名	約17名	
第3回	7月17日 (金)	12:40~ 13:10	10号館1階 ロビー	参加者 イベント 形式	約22名	テーマ 「幽霊はいるのか?いないのか?」 [摂大「七夕祭」イベントと共催]
第4回	11月16日 (月)	17:00~ 18:00	第3グループ 閲覧室	参加者 イベント 形式	8名	テーマ 「好きな漫画・コミックス」



ビブリオバトル予選

学生がすすめる

この1冊

『ファウスト』<第1部><第2部>
(集英社文庫ヘリテージシリーズ)

ゲーテ[著] 池内紀[訳] 集英社 2004年

本書は世界的な名著である「Faust」を、ドイツ文学の研究者である池内紀が翻訳したものです。文体が柔らかく、非常に読みやすいです。しかし平明に過ぎ、高橋義孝などの翻訳に比べると、却って意味を掴みにくい文章がいくつかあるのも事実です。

しかし第一部の終局である牢獄のくだりにおける、疾風怒濤と言う他ない筆致で描かれるマルガレーテの昇天は圧巻の一言です。

また、独特な画風の挿絵が、作品の異様な世界観を演出するのに一役買っていて、バツと見にも楽しい本です。

法学部3年 中條宏樹



『俺たちのBL論』

サンキュータツオ・春日太一[共著] 河出書房新社 2016年

「国語辞典の遊び方」の著者、サンキュータツオ(BLメガネ入手済み)と、時代劇研究家である春日太一(BL未経験)の2人の男によるBL論!

BLって何?腐女子って何?とまだ「腐」の世界を知らない、BLメガネをお持ちでないあなた!「教養書」として読んでみてはいかがでしょう?

BL(ボーイズラブ)というタコツボの世界を垣間見るための入門書としては的確な本だと思います。完全にBLを理解しろ!とは言いません。腐女子に少しばかり寛容になって欲しいだけなのです。きつと読んだあとには世界が今よりもカラフルに見えることでしょう。

経営学部3年 大久保瑞紀



『アヒルと鴨のコインロッカー』(創元推理文庫)

伊坂幸太郎[著] 東京創元社 2006年

「彼はそこで言葉を一度止めて、僕に顔を向けた。『世の中は滅茶苦茶。そうだろう?』」大学入試のため引越してきた僕、ペットショップに勤めるわたしとブータン人の彼、そのどちらにも大きく関わってくる河崎という青年。

彼は一体何者なのか?二つの視点から繰り広げられる現在と過去二つの物語が次第に繋がり、意外な事実が明らかになり!!第25回吉川英治文学新人賞受賞作。読めばきつと伊坂作品を好きになる!

薬学部3年 筆名:ニコリンゴ



図 書 館 利 用 統 計

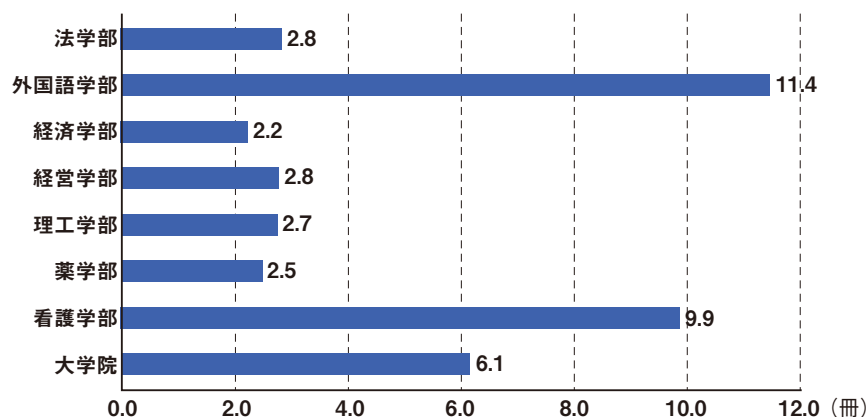
図書館ではより良い図書館運営のために利用状況の調査、アンケートの実施などを行っています。
ここでは2014年度、2015年度（1月末まで）の利用状況と、学部別貸出冊数等について報告します。

図書館利用状況（2014年度、2015年度[1月末まで]実績）

区 分		本 館	分 館	計
開 館 日 数	2015 年度	238日	238日	476日
	2014 年度	281日	288日	569日
入 館 者 数	2015 年度	235,723人	90,343人	326,066人
	2014 年度	262,067人	93,137人	355,204人
貸 出 者 数	2015 年度	18,223人	4,821人	23,044人
	2014 年度	17,873人	4,360人	22,233人
貸 出 冊 数	2015 年度	33,050冊	8,697冊	41,747冊
	2014 年度	32,824冊	8,005冊	40,829冊

◎ここ数年本館では貸出数の減少が続いていましたが、2015年度は回復傾向にあります。
分館では、学生数の増加に伴い、年々入館者数・貸出数ともに増加しています。

学部別1人当たり貸出冊数（2015年4月～2016年1月）



◎外国語学部と看護学部の貸出冊数が非常に多く、授業での図書館利用指導の成果が出ているようです。
他学部の皆さんにも、もっと沢山の本を借りて、読んで欲しいと思います。

貸出トップ10（2015年4月～2016年1月）[本館]

タイトル／著者／出版社	貸出回数
サラバ! (上) / 西加奈子著 / 小学館	15
夢をかなえるゾウ / 水野敬也 著 / 飛鳥新社	14
人生はワンチャンス!: 「仕事」も「遊び」も楽しくなる65の方法 / 水野敬也, 長沼直樹著 / 文響社	13
スバラシク実力がつくと評判の常微分方程式キャンパス・ゼミ / 馬場敬之, 久池井茂著 / マセマ出版社	12
人生はニャンとかなる!: 明日に幸福をまねく68の方法 / 水野敬也, 長沼直樹著 / 文響社	12
生き残った者 / 上橋菜穂子著 / KADOKAWA	12
火花 / 又吉直樹著 / 文藝春秋	12
イニシエーション・ラブ / 乾くるみ著 / 文藝春秋	12
終物語 (中) / 西尾維新著 / 講談社	12
困っている外国人に話しかけたくなる英語編 / 篠原佳年, セニサック陽子著 / きこ書房	11

◎2015年度もメディアで話題になった本や映画化された本、その関連本がよく読まれ、傾向としてはやはり小説の貸出が多くなっています。



*資格・就職に関する本や参考書等は除いたランキングとなっています。

2015年度

「摂大文化大賞」入賞作品発表!!

図書館では、学生諸君の文化的創作意欲を奨励するため「摂大文化大賞」を設け、優秀な作品を表彰しています。今年度も4部門にわたり12点の応募があり、審査の結果、下記の通り8作品が受賞しました。なお、表彰式は12月17日(木)10号館1階ロビーで実施され、受賞者に表彰状と副賞が授与されました。来年度も多数の応募をお待ちしています。



館長から大賞の表彰



参加者で記念撮影

部 門	賞	作 品 名	作 者	
			所属・学年・氏名	
 大賞（写真）		淡路島の夕陽	外国語学部 3 年	橘木 沙季
美術・工芸	部門優秀賞	色あせた世界でも	法学部 2 年	谷本 由佳
	部門準優秀賞	犯人	理工学部（V） 4 年	福田 光
写 真	部門優秀賞	虹	外国語学部 3 年	中島 優衣
	部門準優秀賞	「sunshine」	経営学部（D） 4 年	チョウ 口
その他	部門優秀賞	3つの物語 摂南大学創立40周年記念音楽	理工学部（E） 2 年	萩原 友輔
審査員特別賞		ウソつきの生まれた村で！	外国語学部 2 年	阪上 慶伍
		Go West, young man	法学部 3 年	中條 宏樹



大賞
【淡路島の夕陽】



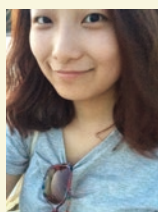
美術・工芸部門優秀賞
【色あせた世界でも】



美術・工芸部門準優秀賞
【犯人】



写真部門優秀賞
【虹】



写真部門準優秀賞
【sunshine】



その他部門優秀賞
【3つの物語 摂南大学創立40周年記念音楽】



審査員特別賞
【ウソつきの生まれた村で!】



審査員特別賞
【Go West, young man】

- <編集後記>
- ・昨年来図書館で取り組んできたビブリオバトル普及活動の成果として、今年度は本学学生の中からビブリオバトル全国大会への出場者を出すことができたことは大きな喜びでした。2016 年度も全国大会出場を目指して、学生諸君の奮起に期待したいものです。
 - ・「ラーニング・コモンズ」が4月に本館でオープンする運びとなりました。この空間は学生諸君が自主的に仲間と一緒に議論して、学修し、それを成果にまとめ、プレゼンテーションにつなげるといった一連のコンセプトのもとに作られた学修支援スペースです。「コモンズ」とは「人が寄り合い、話し合う場所」のことを意味しています。その言葉のとおり、多くの学生諸君が「ラーニング・コモンズ」に集い、議論し、新しい発想で課題解決に取り組み、達成できるような「知的創造空間」として機能してくれることを切に願っています。
 - ・今号の発行にご協力いただいた皆様に感謝します。

Smart and Human
摂南大学



「学而」 摂南大学図書館報 No.97 2016.3

本 館 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8 TEL.(072)839-9111
分 館 〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町45-1 TEL.(072)866-3102

URL: <http://www.setsunan.ac.jp>